

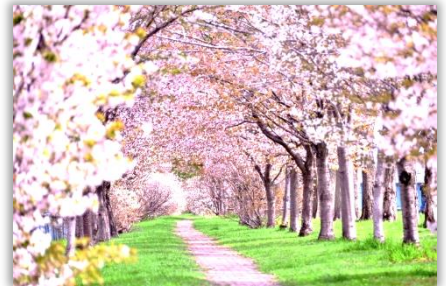
今月のみことば 2025年5月

まことに、彼(イエス・キリスト)は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだと。しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。(イザヤ書53章4～5節 新改訳第3版)

「新年度」と「受難節」

2025年度が始まりましたが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

新しい職場でのスタート、進学や進級による環境の変化など、それぞれが希望や緊張を抱えながら、新年度を迎えておられることと思います。春は心新たに「頑張ろう」と思える季節でもあります。



実は、キリスト教にとっても、この時期はとても大切な意味を持っています。それが「受難節(じゅなんせつ)」という期間です。

今年は3月5日から4月19日がその期間にあたり、特に、4月13日から19日は「受難週」、そして18日は「受難日」と呼ばれています。

受難節とは、イエス・キリストが十字架に架けられるまでの苦しみや死を覚えるための時期です。多くの人々が新しい歩みを始める春、そんな希望に満ちた季節の中で、私たちはあえて「苦しみ」や「死」を思い起こすのです。それは少し不思議に感じられるかもしれませんが。

しかし、なぜイエスがそのような苦しみを受けられたのか。それは、イエスが生まれる約700年前に書かれたイザヤ書53章にはこう記されています。

「まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。
…彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。」



つまり、イエスが十字架で苦しまれたのは、他でもない「私たち」、つまり「あなた」のためだったということです。私たちが神を知らず、背を向け、自分中心に生きてしまっている、その罪のすべてを、イエスが身代わりに引き受けてくださったのです。

しかし、それだけでは終わりません。イエスは十字架で死なれた後、3日目に死を打ち破って復活されました。これが、キリスト教の中心にある「福音(良い知らせ)」です。

イエスの十字架と復活を信じる時、どんな状況にあっても心に平安が与えられ、魂が癒やされていく。それが、神から私たち一人ひとりに向けられた神のご愛であり、救いのご計画なのです。

この春を振り返って、ぜひ受難節の意味を心に留め、イエス・キリストの十字架に込められたご愛に目を向けていただくことをお勧めします。そこに、真の希望があります。

この1年が、あなたにとって神を知り、イエス・キリストと出会う新しい歩みの始まりとなりますように、心からお祈りしています。(M)